

「ともにある世界」

新しい年が始まりました。平成29年、西暦2017年、仏歴2560年、イスラム歴1438年になるようです。

世界には、これら以外にも様々な暦が使われています。そしてそれぞれに歴史的、文化的背景があり、さまざまな人たちが生きているわけです。なかなか普段はそういったことを考えることもできない自分がいるわけですが。

先日新聞に、若いイスラム教の信者やその家族が、地域の方を招いてバーベキュー会を開いたという記事が載っていました。イスラム教や自分たちに対する誤解や偏見を少しでも解消したいという思いから開いたそうです。

私にもイスラム教を信仰している知人がいます。中東地域から日本に移住され、結婚してそのまま日本で暮らしておられます。男性は一見しただけではわかりませんが、女性は独特の服装のため外からでも信者ということがわかります。

何年も日本に住んでいても、未だに外を歩けば、いわれのない誹謗、中傷を受けるそうです。汚いものを見るような目だけでなく、「町から出ていけ！ テロリスト！」などというような言葉も浴びせられたそうです。「自分たち大人が言われるのはまだがまんできる。でも子どもたちがそういう目に合うのは本当に悔しい。私たちがいったいみなさんに何をしたというのですか。」と、やりきれない思いを語っておられました。

世界に目を向けると、イスラム教信者を排除する、メキシコ人を追い出す、と公言している人が大統領になったり、これ以上外国の労働者が増え続けると自国の利益が損なわれるということで、EUから脱退したりといった動きもあります。

日本でも、外国の方を公の場で罵倒するようなヘイトスピーチなるものが、たくさん行われています。

自国の利益、自分の利益を優先することが当然であるという考え方が無批判に横行する世の中に急速に傾倒していつていることに不安を感じているのは私だけではないと思います。

自国の利益だけを最優先していくことのなれの果ては、歴史が証明しているとおりです。しかし、なかなか自分以外のものが見えてこない、「ともに」ある世界がみえないのは私たちの残念な姿です。その世界や私たちの在り方を示してくださるのが仏の教えなのではないでしょうか。

ますます聞法していくことの大切さを感じるこのごろです。